

1. 午前は日光で光合成、午後は成長と栄養合成で日陰に！



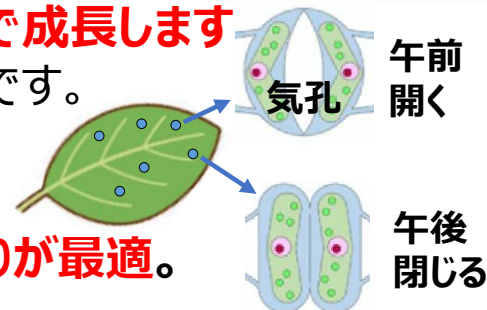
●午前：日の出～11時頃の日光5時間で葉の裏にある気孔が大きく開き、光合成が行われ、細胞分裂で成長します

●午後：日光が強く気温が上がり水分蒸散を防ぐために気孔を閉じるため、午後は日陰になる場所が最適です。

午前中に得たエネルギーで午後は成長を促進したり、栄養分を合成したりすることが多いです。

●夜間：日中に作り出したデンプンなどの養分を使い、根を伸ばしたり枝を太くしたりします。夜は過湿厳禁

西日が強い場所は「葉焼け」、水分不足に陥りやすく、遮光ネットで調整。気孔が開く涼しい午前中の水やりが最適。



レモンの成長を促す日光と温度条件

気孔は光合成のためのCO₂の取り込みと蒸散と水分調節

最低でも1日4～6時間以上の直射日光が必要で、午前中の日光が最も葉っぱや枝を成長させます。

成育適温は15℃～25℃。真夏30℃以上は成長鈍化で遮光ネット、最低気温5度で屋内に、耐寒温度-3℃以下で枯れる



季節ごとの成長サイクル

成長（新梢）は、春・夏・秋の3つの時期に集中します。

・春枝（4～5月）：最も重要な成長期。果実になる花がつく。または花がなく翌年の結果母枝になります。

・夏枝（6～8月）：急速に枝が伸びます。水分と肥料を多く吸収して成長します。

・秋枝（8～10月）：木を大きくする時期で樹冠を大きく広げます。切り詰め剪定をして調整します。

半日陰でも育つ：終日日が当たる南向きがベストですが、午前中しか日が当たらない東向きの場所でも結実します。

夏の強い直射日光：夏の間、午後は少し日陰になるような場所（半日陰）へ移動させるか、遮光ネットを利用しましょう。



成育適温
15℃～25℃



成長サイクルと期間

幼木期（1～3年生）：成長が最も旺盛な時期。上に伸びる「春芽」や、夏に急激に伸びる「夏芽」によって大きくなります。

開花・結実：接ぎ木苗は植え付けから2～3年で実が、挿木苗は植え付けから3～5年で実がなり始めます。

種から育てた実生苗は花が咲くまで7年以上かかることがあり、3年生以後は高接ぎをすると翌年から実が成り始めます。

2. 午前は水やりと日向、午後は日陰に！



夏場の鉢植えレモンの苗木は 

朝8時まで と 夕方6時頃 に水やり

気温が上がる時間帯や、夜間の遅い時間の水やりは避けましょう。

朝：8時まで



朝8時までに
水を与えると、
日中の暑さの前に
土が適度に湿り、
根がしっかり水分を
吸収できます。

夏場の水やりの
ポイント

- ✓ 鉢底から水が流れ出る
くらいたっぷりと与える
- ✓ 土の表面が乾いたら
水を与える
- ✓ 受け皿の水は
捨てる
- ✓ 風通しのよい場所で
管理する

夕方：6時頃



夕方6時頃に
水を与えると、
夜のうちに土が落ち着き、
苗木がしっかり
水分を取り込めます。

水やりのポイント 



鉢底から水が
流れ出るまで
たっぷりと



土の表面が
乾いたら
水を与える



受け皿の水は
こまめに捨てる
(根腐れ防止)



風通しのよい
明るい日陰で
管理する

⚠ 避けたい水やりの時間

- ・ 日中 (8時以降～夕方6時前) の水やりは、
高温で水がすぐに蒸発し、根を傷める原因になります。
- ・ 夜遅く (遅くとも8時以降) の水やりは、湿った状態が
長く続き、根腐れや病気の原因になります。



朝8時までと
夕方6時頃の
水やりを
心がけよう！

3. 夏の強い直射日光は水切れや葉焼けの危険！



30℃以上の暑さと強烈な日差しから守る対策

◆鉢植えの場合: 移動できるメリットを活かし、**真夏は半日陰**（午前中だけ日が当たり、午後は日陰になるような場所）や、**遮光シート**を利用して直射日光を30～50%ほどカットしましょう。

◆地植えの場合: 移動ができないため、**よしずや寒冷紗**（かんれいしゃ）を張って、午後の強い西日や直射日光を遮る対策必要。

レモンの苗木は
真夏は半日陰で！

（午前中だけ日が当たり、
午後は日陰になるような場所）

半日陰が大切な理由

- 強い直射日光を避けて、葉焼けや乾燥を防ぎます
- 蒸散をおさえ、根への負担を軽くします
- 元気に育ち、葉の色つやも良くなります

理想的な半日陰のイメージ



置き場所の例

- ✓ 東側の庭やベランダ
- ✓ 午前中だけ日が当たる場所
- ✓ 午後は建物や樹木の陰になる場所



午前中
日が当たる

午後
日陰になる

ホームページ育成ページ

午後は日陰になる
場所に置くのが
ポイント！

夏の管理のポイント



水やりは
朝か夕方の
涼しい時間に



鉢の表面を
マルチングして
乾燥を防ぐ



高温の地面に
直接置かない
（すのこや台の上に）

半日陰で管理することで、レモンの苗木が暑い夏を元気に乗り切り、しっかりと育ちます。

レモンの地植えは、午後の強い西日や直射日光を遮る対策が必要です



午前中は日が当たり
光合成を助ける

午後の強い
西日や直射日光を
遮る！

遮光のメリット

- ・葉焼けや果実の傷みを防ぐ
- ・水分の蒸散を抑えて樹の負担を軽減する
- ・果実の品質向上につながる

よしずを張る場合



天然素材で風通しがよく、
遮光効果も高い。

寒冷紗（かんれいしゃ）を張る場合



軽くて扱いやすく、遮光率を
調整しやすい。

4. 鉢植えは雨が続く梅雨や大雨の後は危険状態です

(適度な雨はそのままで良い)



軒下など雨の当たらない場所へ移動させ、土が乾くまで水やりを控えましょう。

- ① 土壌の団粒構造が大雨で壊れ、**酸欠**になり**根腐れ**を起こしやすい
- ② 地面に降った雨の**泥はね**によって、土の中の**病原菌**が葉や茎に付着することで感染し病気になりやすい
- ③ 台風後の高温多湿は**カビ**や**悪玉菌**（糸状菌など）が繁殖しやすく根腐れを起こしやすい
- ④ 雨で土の中の肥料が流れ出て、**肥料不足**になります
- ⑤ 雨上がり後、すぐに肥料をあげると根が弱っていて吸収できず、「**肥料焼け**」で枯死する危険があります

大雨前の対策

- ・水やりを控える
- ・鉢皿は逆さにし、レンガやすのこに乗せて地面の土（床）から浮かせて風通しを良くします
- ・雨が直接当たらないように軒下や雨の当たらない場所、屋内、玄関前へ移動させます
- ・泥はね防止として、株元にワラや不織布などを敷くのが効果的です

大雨後の対策

- ・水やりを控える
- ・根が弱っているようなら肥料を少しの間控えましょう。回復を確認出来たら追肥します。
- ・肥料の代わりに弱った根の回復を助ける「メネデル」や「リキダス」などの活力剤を与えるのがおすすめです。
- ・土の表面が乾いて根や株が元気そうになれば追肥します。液肥の「ハイポネックス原液」や「顆粒レモンミカンの肥料」をあげましょう。葉っぱの色が黄色い時はマグネシウムを含んだ顆粒の「おいしい野菜くだものをつくりたい」肥料や「微量要素8」が効果的です。

鉢皿は逆さ

